

知立市議会 篤心会 神谷定雄

日程：令和7年8月27日（水）～8月28日（木）

場所：札幌市中央エネルギーセンター・札幌市「ヒタル」大ホール

【1日目】8月27日（水）

視察レポート

## テーマ：熱供給について学ぶ（札幌市中央エネルギーセンター）

### 1. 視察先概要

札幌市中央エネルギーセンターは、札幌都心部の大気汚染問題を解決する目的で1971年に設立されました。都市型地域冷暖房施設として、ホテル・商業施設・オフィス・病院などに効率的に熱を供給しており、特に冬季の厳しい寒さを支える重要な役割を担っています。

同センターでは、石油・天然ガス利用のほか、再生可能エネルギーの導入や省エネ技術の活用も進めており、近年はカーボンニュートラルに向けた熱供給事業の展開に注力しています。また、SDGs推進の観点からも教育的価値の高い施設となっています。

### 2. 視察行程

- ・ 9:30～9:50 センター概要・設備について説明
- ・ 9:50～10:20 施設内部の見学（熱供給設備・制御システムなど）
- ・ 10:20～10:40 質疑応答

見学全体は約90分間で、8名のグループ視察として実施されました。

### 3. プログラム内容

- ・ 札幌市の中心部における大気汚染解消の経緯
- ・ 地域冷暖房の仕組みとメリット（効率性・環境負荷軽減）
- ・ 再生可能エネルギー導入の事例
- ・ SDGs達成に向けた都市エネルギー政策との関連

#### 4. 所感

今回の視察を通じて、札幌市が半世紀にわたり都市型熱供給の仕組みを運用し続けてきた意義を実感しました。特に、厳冬期における安定した熱供給は市民生活の安全・安心を支えるものであり、その仕組みが環境対策とも結びついていることは大変示唆に富んでいました。

また、単なる施設見学にとどまらず、「エネルギーの効率的利用」「持続可能な都市づくり」「SDGs 達成への貢献」といった広い視点で学べる点が非常に印象的でした。知立市においても、地域特性に応じたエネルギー施策や公共施設での省エネ推進に活かせる視点が多く得られたと感じています。

### 第 20 回 市議会議長会研究フォーラム in 札幌（初日）レポート

#### 開催概要

- ・ 日時・場所：2025 年 8 月 27 日、札幌市「ヒタル」大ホール（収容人数 2,300 人）
- ・ 主題：「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」
- ・ 参加規模：定員 2,500 人の募集に対し、全国から 3,000 人超の応募があり、関心の高さを裏付けた

#### 1. 主催者・来賓挨拶

- ・ 全国市議会議長会 会長（丸子山形市議会議長）  
「天井桟敷でもよしとすべきか」とユーモアを交えて歓迎の言葉。全国的に議会改革の気運が高まっていることを強調。
- ・ 長内 直也 札幌市議会議長  
「なり手不足問題は、単に議員の問題ではなく、地域社会の未来に直結する課題である」と発言。
- ・ 秋元 克広 札幌市長  
「市民 193 万人を代表し、この地で開催できることを光栄に思う」と挨拶。市民参加型政治への意欲をにじませた。

#### 2. 基調講演：「主権を預かる誇りと責任」

講師：伊吹文明 元衆議院議員

## 講演の骨子

- ・ 地方議員の責務

「自治とは、自分たちのことは自分たちで決め、責任を負うこと」と改めて定義。議員は単なる“地域代表”ではなく“主権を預かる人”であることを強調。

- ・ 憲法と地方自治
- ・ 大日本帝国憲法下では議会と行政が異なる権力関係に置かれていたが、現行憲法では二元代表制が確立。

・ その中で「議会と首長が対立・調整しながら進む難しさ」が民主主義の本質であると説明。

- ・ 現代政治の課題
- ・ 小選挙区制が「強い個人主張」をしにくくし、党内調整に偏る現状を批判。
- ・ 地方議員の社会的保障（年金・健康保険）を充実させなければ、多様な人材参入は難しいと指摘。

## 3. パネルディスカッション

テーマ：「多様な人材の参画促進から見る、地方議会の“なり手不足”問題」

コーディネーター：辻 陽（近畿大学教授）

### (1) 牧原 出（東京大学教授）

- ・ 人口減少と自治の持続可能性

団塊ジュニア世代の高齢化、コロナ禍による人口流出に言及。

- ・ デジタル活用の必要性
- ・ AI や VR を活用した議会運営の効率化。
- ・ IT システム導入による議会事務の標準化・合理化。

### (2) 白石 洋一（読売新聞政治部次長）

- ・ 立候補のハードル

「お金」「社会保障の脆弱さ」「炎上リスク」が若手・女性の立候補を阻害。

- ・ 提案

議員活動に“働き方改革”の視点を導入し、介護や育児との両立を可能にする仕組みが必要。

### (3) 山下 節子（宇部市議会議長）

- ・ 法改正と議会の責務

令和 5 年自治法改正を踏まえ、「議会の自律性」が強調されるようになったと報告。

- ・ 若者参加の推進
- ・ 高校生議会を開催し、主権者教育を実施。
- ・ 議員の魅力を積極的に発信している事例を紹介。

#### (4) 長内 直也（札幌市議会議長）

- ・ 市民との距離を縮める工夫
- ・ 議場見学の機会を拡大。
- ・ 学生や市民に“議会レポート”を作ってもらい取り組みを展開。

#### 4. 共通課題と提言

- ・ 社会保障の脆弱さ

議員任期中に年金が大きく目減りする構造があり、若手人材流入の壁になっている。

- ・ デジタル化の加速

遠隔・オンライン議会の導入、公費負担の拡大による参加機会の均等化。

- ・ 主権者教育の徹底

高校生議会や SNS 活用で、地域に議会を“見える化”することの重要性。

#### 5. 背景説明

##### (1) 「なり手不足問題」の全国的文脈

- ・ 2023 年の統一地方選挙では、無投票当選が過去最多（約 28%）。
- ・ 議員の高齢化率も上昇し、40 代以下の議員比率はわずか 14%。
- ・ 「政治は地域の担い手がいなくなる」現象が顕在化している。

##### (2) 令和 5 年地方自治法改正

- ・ 議会基本条例の位置づけが強化され、議会自らの説明責任・政策立案力が問われるようになった。

- ・ これにより、「議会＝チェック機関」から「政策形成機関」へと役割が拡張している。

#### 6. 所感

今回のフォーラムを通じて、地方議会が直面する課題は単なる「議員数の不足」ではなく、民主主義そのものの持続可能性に直結していると強く感じました。

伊吹文明氏の「自治とは責任を持つこと」という言葉は、議員個人だけでなく、市民自身への問いかけでもあります。議員は“選ばれる人”であると同時に、“選

ぶ人”が存在し続けなければならない。

そのためには、

- ・社会保障の整備によって議員という職務を現実的な選択肢にすること
- ・デジタル化やオンライン化で多様なライフスタイルを持つ人が参加できる環境を整えること
- ・若い世代に「政治は自分ごとだ」と実感させる教育・啓発を行うこと

これらを複合的に進める必要があります。

「なり手不足問題」は“議員の問題”ではなく、“地域社会の未来の問題”。今回の札幌フォーラムは、その重さを全国で共有する大きな契機になったといえるでしょう。



## 第 20 回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌

### 最終日（8月28日）視察レポート

#### 1. 全体テーマ

最終日のテーマは「地方議会議員のなり手不足問題」でした。関東学院大学の牧瀬稔教授による基調報告を皮切りに、長野県岡谷市・鹿児島県南さつま市・石川県白山市の3市の事例報告が行われ、パネルディスカッションを通じて、議員のなり手不足の現状と課題、そして今後の対策について議論が深められました。

#### 2. 基調報告の概要（牧瀬稔教授）

- ・ 統一地方選挙における低投票率と小規模自治体での無投票増加が顕著であり、議員の担い手不足が全国的に深刻化していることが示されました。
- ・ 「なり手不足」には2種類あることが指摘されました。
- ・ 必然的なり手不足：議員活動そのものの負担や待遇面の課題によるもの。
- ・ 潜在的なり手不足：候補者になり得る人材は存在するが、議員職に魅力を感じず立候補しない状態。
- ・ 特に、無投票選挙の増加や有権者の政治離れは、民主主義の基盤を揺るがす重大課題であると警鐘が鳴らされました。

#### 3. 事例報告

##### (1) 岡谷市（長野県）

- ・ 人口：約4.5万人、議員定数18人。
- ・ 「議員のなり手不足と報酬の問題」がテーマ。
- ・ 議員報酬が低く、働きながらの両立が難しい現状がある一方で、議会活動の広報強化により市民参加を促している事例が紹介されました。

##### (2) 南さつま市（鹿児島県）

- ・ 合併による議員定数削減の影響もあり、選挙において候補者不足が顕著化。
- ・ 議員活動を市民に理解してもらうための地域懇談会や、若者層への働きかけが取り組まれていることが報告されました。

### (3) 白山市（石川県）

- ・ 人口：約 11 万人、議員定数 21 人。
- ・ 直近の市議選では候補者が減少し、女性議員も 3 人と少ない現状。
- ・ 議員活動の見える化、SNS による情報発信、広聴活動の拡充が進められており、市民に身近な議会を目指している事例が共有されました。

### 4. パネルディスカッションの内容

- ・ 若者や女性、会社員など多様な人材が議会に参加できる環境整備の必要性が強調されました。
- ・ 「議員の仕事はハードルが高い」というイメージを払拭し、やりがい伝える工夫や柔軟な働き方の可能性を提示することが重要。
- ・ 報酬や待遇の改善と同時に、議員活動を支える市民意識の醸成も不可欠である点が議論されました。

—

### 5. 所感

最終日の議論を通じて、議会の担い手不足は単に「人材がない」という問題ではなく、「議員職が魅力的に映らない」ことが大きな要因であると改めて感じました。特に、報酬や兼業制限などの制度的課題はもちろんですが、それ以上に「議員の役割ややりがいを社会にどう伝えるか」が重要な視点であると痛感しました。

また、各地の事例から学んだのは、「地域特性に応じた工夫」が不可欠だということです。例えば、岡谷市のように待遇改善を直球で訴える方法もあれば、白山市のように情報発信を強化し市民理解を広げる方法もある。それぞれが組み合わせることで初めて、持続可能な議会活動の基盤が作られるのだと理解しました。

知立市においても、議員のなり手不足は将来的に避けて通れない課題です。今回の学びを踏まえ、市民が議会を身近に感じ、参加意欲を持てる環境づくりを進めていくことが急務であると感じました。